

みどりとともに

大瀧 典夫 会長筆

第 7 号

2003年 8 月 1 日

社団法人 茨城県治山林道協会

水戸市三の丸1丁目3番2号

林業会館3階



「深緑の奥久慈」 渡邊四郎氏撮影

◆◆◆ も く じ ◆◆◆

山地防災体制の整備について	2
本県における木材使用工事について	3
町から村から	
豊かな森林資源と山林環境の保全 美和村	4
林道整備と地域資源 緒川村	5
どっこい、林道は頑丈です	6
協会だより 平成15年度 通常総会の開催	7
協会の主な動き	8



山地防災体制の整備について

茨城県林業課

1. はじめに

皆様ご存知のとおり、我が国では地形、地質的な特徴から毎年、全国各地で集中豪雨等による山崩れ、土石流、地すべりなど山地に起因する災害が発生し、尊い人命・財産に甚大な被害を及ぼしている現状にあります。

2. 山地防災体制の整備

これらの山地災害を防止し、県民の生命・財産を守り、安全で快適な生活環境を形成するためには、治山事業の積極的な推進と併せて、本県に972箇所（うち民有林は951箇所）ある山地災害危険地区及び海岸部の荒廃地等の周知徹底、警戒避難体制の確立、防災意識の普及等、いわゆるソフト対策を展開することが必要です。

ここでは、山地災害危険地区対策の1つで、山地防災体制の核となっている山地防災ヘルパー制度について紹介します。

(1) 山地防災ヘルパー制度

県では山地防災体制を強化するため、平成9年度から山地防災に関して一定の専門的知識を有する市町村職員や関係団体の治山技術職員を「山地防災ヘルパー」として育成しており、現在51名を認定しています。

山地防災ヘルパーの役割は、普段の仕事や生活の中で行う情報収集活動で得られる山地災害情報を県の治山担当者に連絡することにより、山地災害の未然防止や警戒避難、早期復旧に役立たせることです。

また、前述のとおり、山地防災ヘルパーの多くは現職の市町村職員であることから、これらの山地防災ヘルパーを通じて市町村や地域住民に対す

る山地防災意識の普及活動を展開しています。

(2) 山地防災ヘルパー研修会

さらに、山地防災ヘルパーを対象とした研修会を年1回開催しており、今年も去る6月19日、つくば市にある独立行政法人防災科学技術研究所を会場に開催しました。

同研究所の施設見学では、世界最大の規模と能力を有する大型降雨実験施設で行われていた降雨実験を始め、各種最先端防災科学研究施設を見学しました。

また、「土砂災害と防災科学技術」をテーマにした講演では、同研究所主席研究員の森脇寛氏に、土砂災害の実態や予知研究の現状のほか、災害事例の紹介とそこから得た教訓及び土砂災害に対する日頃の備えについて等、日頃の研究成果の一端をわかりやすく説明していただきました。

3. おわりに

県では、山地災害危険地区における治山事業の推進はもとより、山地災害を未然に防止するために、山地防災ヘルパー制度を活用した山地防災体制の強化促進を引き続き進めてまいります。



地震活動に関する説明

本県における木材使用工事について

治山林道協会

木材利用の積極的な推進が、重要課題となっています。前回6号では、「他県における木材使用の現状について」を掲載しました。今回は、本県での木材を利用した工事の事例を紹介いたします。

1. 木製床固工



生活環境保全林整備事業により実施された木製床固工です。土砂の移動や洪水による浸食を防止し、小渓流の安定を図ります。丸太を井桁状に組み、その中に栗石を充填し築設します。栗石の間隙に、カエル等の小動物が営巣することもあり、環境に優しい構造といえます。

2. 丸太柵工



切土法面のステップに設置し、側溝への崩落土の流入を防止します。スパンを2mとすることにより、曲線部での施工性を良くしました。

3. 丸太防風柵工



茨城県の東側は、北端の北茨城市より南端の波崎町まで、太平洋に望み、この長い海岸線は、保安林等により保護されています。

写真は、保安林改良事業により、実施された丸太防風柵工です。植栽林を、強風や飛砂より守ります。この植栽林は、クロマツを主林木とし、1区画(8m×8m)に64本を植栽し、静砂垣と常緑低木のトベラ(赤い粘った種子は鳥が良く食べる)でますを囲み、肥料木として、落葉低木のアキグミを植えています。

4. その他の木材使用

茨城県産の間伐材を利用した工事用看板が、製品化されています。



問い合わせ先

茨城県林業土木事業協同組合

TEL 029-225-3143 担当：清水



町から村から

豊かな森林資源と山林環境の保全

美和村建設課

美和村は、茨城県の北西部に位置し、八溝山系に連なる山並みに囲まれ、中央部を西から南東へと緒川が流れ、緑豊かな自然景観を有する村です。

総面積は80.35km²で、その約82%を森林が占める美和村は、良質なスギやヒノキの産地として知られ、古くから林業が盛んで、森林は人々の暮らしに多くの恵みをもたらしてきました。

村では、森林資源の確保と地域振興を図るため、以前から林業構造改善事業等を推進し、林道開設、森林活用自然公園整備、農産物直売施設整備等を進め、これまでに花立自然公園や、物産センター「北斗星」、美和温泉「ささの湯」など、自然資源を活用した施設整備を進めてきました。

なかでも、観光レクリエーションの拠点づくりを目的として整備した花立自然公園は、物産センター「北斗星」とともに、村の農林業の振興と地域活性化及び山村と都市との交流の場として寄与しています。

公園内には、宇宙をイメージした施設や天体観測所「美スター」、宿泊施設「ログキャビン」、遊歩道などがあり、自然豊かな公園となっています。村の観光資源である鷲子山上神社や三浦杉とともに森林浴や自然探訪が楽しめます。



花立自然公園



尺丈山遊歩道

また、森林の新たな展開として、広葉樹による100年後の森づくりをめざし、村北部の尺丈山に「百樹の森」を整備し、村内外からのボランティア活動により、植樹や下草刈りを定期的に行いみんなの森づくり、森林の保全に努めています。

本村の森林は、スギ、ヒノキの成育に適した土壌と気象条件を背景に造林事業が進められ、現在成熟期を迎えた人工林が大半を占めています。

こうした現況を踏まえ村では、森林施業の合理化、生産性の向上を図るため、計画的な林道の整備を進め、現在までに28路線の林道の整備をしました。

これらの林道のうち、村北部に整備した峰越え林道は、地域の集落と集落を結ぶ生活道として、また、森林整備、木材生産の基盤として山村地域の生活に特に重要な役割を果たしています。

林業を巡る情勢は、国産材の価格の低迷、林業労働者の減少、高齢化など厳しい状況ではありますが、関係機関と連携して造林事業、生産基盤の整備等を積極的に進め、森林の持つ国土保全、保健休養、水源涵養等の公益的機能に十分配慮した森林造成を行い、山林の有効利用を進めています。



町から村から

林道整備と地域資源

緒川村建設課

緒川村は、八溝山系鷲子山塊に属しており、その大部分は標高200~300mの山々に囲まれた中山間地域であり、総面積の約65%を山林が占める緑豊かな農山村です。この山々から流れ出る水を集めて、一級河川「緒川」が村の東部を貫流しており、村民の大切な飲料水の水源になっております。

村では、この豊かな森林を利用して地場産業の振興に力を入れておりますが、林業を取り巻く情勢は木材需要の低迷、労働力の減少、高齢化による後継者不足など本村にとっても厳しい現状にさらされております。このような中にあっても、合理的な林業経営や生産性の向上を図り、集約的な森林管理に資するために、林道の整備や間伐道・作業道の開設を積極的に推進してきました。

今までに8路線の整備が行われ、現在は「栗平馬打沢線」の開設整備を進めているが、この路線が完了すれば計画路線はほぼ終了することになります。



開設が進む林道「栗平馬打沢線」

特に、近年整備が完了した林道「高岩沢線」や「滝の沢線」・「野沢線」は、森林面積も多く、そのほとんどが杉や桧等の人工林として植林されたもので、健全な森林保育に努めているところで

あり、引いては、山林保全・環境保全・水源涵養等に大きな役割を果たしており、地域の大切な資源となっております。また、集落と集落を結ぶ生活道としても重要な路線となっております。



物産センター「かざぐるま」

これらの沿線には広葉樹も多く、コシアブラやたらの芽・タカノツメなどの山菜も豊富にあり、新緑の季節には多くの方が山菜取りに利用しており、この時期には採り立ての山菜が国道293号線沿いにある村の物産センター「かざぐるま」の店内に、地元の新鮮な野菜等と一緒に並びますが、すぐに売切れてしまうほど人気を集めております。

また、本村は、特用林産物のしいたけ栽培が盛んであり、その品質は極めて優秀で毎年全国のコンクールにおいて入賞し、高い評価を得ているところでもあります。

これらもまた、林道を利用することにより一層生産力が増し、林業の振興に役立っております。

このように、林道の開設・改良によって山林の施業促進の効果が図られ、その機能が高められることとなります。

どっこい、林道は頑丈です

治山林道協会 林道担当

5月26日午後6時20分過ぎ。また地震か。小さな揺れが暫く続いた。「震源は遠いな」、「すぐに治まるさ。」そんな感じだった。

ところが、治まるどころか更に揺れは強さを増し、横揺れを伴いユサユサ、ガタガタ。「これはいかん、相当大きい。」部屋中の物が、不気味な音をたてて踊っている。

どれ程の時間だったのだろうか、相当長いように感じた。「三陸南地震である。」

テレビでは、忙しなく速報が流され、東北地方で強い地震が発生した事を伝えている。(M)7.0震度6、全容が明らかになるにつれ、容易ならざる事態が起ったのではとの思いがよぎる。

(阪神淡路大震災の記憶が甦る。)画面がへりからの中継に変わり、不謹慎ながらホッとした。

後日目にした地元紙によると、6月5日現在岩手県内の被害額は89億7,900万円に上り、道路などの土木施設に、大きな被害をもたらしたと報じられていました。では、林道の被災状況はどれ程なのか。この地域は、昨年7月の台風6号により大きな被害を被り、復旧工事を進めているところに、「震度6」という地震が襲ったからです。私の中には、ズタズタに被災した林道が、そこに在りました。

この地には、林道設計の仕事に就いてから、足繁く通い(溪流道楽)20有余年が経過した今でも、教えられる事の多い路線がたくさんあります。今回の地震により、それらの林道が、どれ程の被災を被ったのか。地震発生から一ヶ月程経過した6月に、「震度5強」を観測した胆沢町^{いさわ}地内の林道を見に行きました。

この地は、秋田県境を分水嶺として、多くの支流を集め北上川へと注ぐ、胆沢川支流の源流域にあたります。

朝靄の中、ダム直下の深く切れ込んだ溪谷が、遙下に見えている。老朽化した狭い橋を渡りホッとす。何度渡ってもお尻が「ムズムズ」する所である。「今回は尚更の事。」未舗装の狭路を往くと、これぞ「隧道」と呼ぶに相応しい、岩盤を真直ぐに穿った、約700m程のトンネルが現れる。大きく口を開けた暗闇の中、遙先の出口だけが、小さく光っている。「ここも大丈夫のようだ。」溪沿いの狭路を、更に10キロ程走り、ようやく林道の起点に到着した。

荷物を詰めたザックを背に、さて出発。稜線に開設された林道は、緩やかに下降しながら溪へと続いている。遠目には被害を受けた様子は見えない。1キロ程歩いたろうか、尾根を回った先が塞がれていた。切土面の崩落である。節理の進んだ一抱え程の岩石が崩れ重なっている。更に歩く、歩く。幾つかの橋、谷側の構造物は被害を受けていない。被害の少なさにホッとす。道楽で一時を過し、ここを後にする。

この日、更に数路線見て回ったが、被害は少なく安心したしだいである。

翌月(7月)にも、震源に近い地域(陸前高田市、震度5強)の林道を見て来たが、被害は少ないようです。「地形に即した林道は頑丈です。」

“線形計画の大原則は地形に沿って”。それを再認識した、今回の地震でした。

◆◆ 協会だより ◆◆

平成15年度 通常総会の開催

平成15年5月28日(水)、水戸京成ホテルにおいて、平成15年度第24回通常総会を開催し、次の議案について、原案どおり可決承認されました。

- ◇平成14年度事業報告並びに収支決算
- ◇平成15年度事業計画並びに収支予算
- ◇平成15年度会費の賦課及び徴収
- ◇平成15年度借入金の最高限度額の決定
- ◇平成15年度役員報酬の決定
- ◇平成16年度暫定予算

総会には、平戸郁夫農林水産部次長兼林政課長、(社)日本治山治水協会・日本林道協会の瀧川忠昭事業部長、県の各関係課長、関係職員、関係団体の方々など、多数のご出席を頂き、盛大な総会となりました。

また、例年のとおり、林道維持管理コンクールの入賞路線の市町村並びに、治山・林道木材使用工事コンクールの入賞工事業者に対し、表彰及び記念品の贈呈を行いました。



大瀧会長のあいさつ

☆林道維持管理コンクール

次の路線が各賞に入賞されました。日頃より林道の維持管理、本当にご苦労さまです。

平成15年度においても、予定どおり実施してまいります。今年度のコンクールには前後してしましますが、例年の実施に関し、皆様のご理解とご協力のほど、宜しくお願いいたします。

茨城県知事賞 金砂郷町 大藪蜂巢線
 茨城県農林水産部長賞 大子町 大塩後沢線
 茨城県治山林道協会会長賞 里美村 田平黒坂線



大瀧会長、平間副会長、成井副会長と
林道維持管理コンクールの受賞者の方々

☆治山・林道木材使用工事コンクール

治山工事、林道工事合わせて9社1団体の方々が入賞されました。おめでとうございます。詳しくは、当協会のホームページをご覧ください。

<http://business2.plala.or.jp/iba-crk>



治山・林道木材使用工事コンクールの受賞者の方々

協会の主な動き

- ★ 1月22日
第3回理事会（水戸市）
- 1月24日
林業団体合同新年の集い（水戸市）
- 1月29日
全国治山林道協会会長会議（東京都）
民有林振興会総会・セミナー（東京都）
治山林道コンサル業務研究会（東京都）
- ★ 2月6日
林業雇用改善セミナー（水戸市）
- 2月16日
県民参加の森づくり推進事業＜植樹＞
（水府村）
- 2月24日
茨城県林業種苗協同組合通常総会（水戸市）
- 2月25日
茨城県農林水産振興協議会セミナー（水戸市）
- ★ 3月6日～7日
北関東治山林道協会連絡会議（栃木県）
- 3月14日
県北地域木材利用促進協議会（笠間市）
- 3月15日
北浦広葉樹の森づくり記念植樹（北浦町）
- 3月18日
第3回世界フォーラム「水と森林分科会」
（京都府）
- 3月19日～20日
治山林道コンサル技術研究会（東京都）
- 3月25日
第4回理事会（水戸市）
- 3月27日
（社）茨城県緑化推進機構 役員会・通常総会
（水戸市）
- 3月28日
「平成14年度治山林道強化促進事業補助金実績
報告書」提出（茨城県）
- ★ 4月17日
森林土木コンサルタント連絡協議会 通常総会
（東京都）
- 4月22日
治山林道事業担当者会議（水戸市）
- 4月23日
平成15年度緑の募金活動（水戸市）
- ★ 5月6日
平成15年度森林整備事業（民有林林道）
設計審査（東京都）
- 5月7日
平成14年度監査（水戸市）
- 5月18日
第54回全国植樹祭（千葉県）
- 5月26日
（社）茨城県林業協会 通常総会（水戸市）
- 5月27日
茨城県木材協同組合連合会通常総会（水戸市）
（社）水戸法人会 通常総会（水戸市）
- 5月28日
第1回理事会・第24回通常総会開催（水戸市）
- 5月29日
（社）茨城県緑化推進機構 役員会・通常総会
（水戸市）
- 5月30日
「平成14年度事業報告及び収支決算書等」提出
（茨城県）
- ★ 6月2日
「資産変更登記申請書」提出
（水戸地方法務局）
- 6月19日
山地防災ヘルパー研修会（つくば市）
- 6月25日
茨城県林業改良普及協会 通常総会（水戸市）
- 6月26日
公有林野全国協議会 理事会・通常総会
（東京都）
- 6月27日
「財務に関する報告書」提出（国土交通省）

「みどりとともに」

（年2回 発行）

社団法人 茨城県治山林道協会
編集・発行 大瀧典夫
水戸市三の丸1丁目3番2号
林業会館3階

TEL 029-225-7280

FAX 029-225-7582

<http://business2.plala.or.jp/iba-crk>

e-mail: chisan@atlas.plala.or.jp